

技術資料番号 ケ技資-10025 号

国土交通大臣認定書

認定番号 PS060FL-0086  
(認定取得会社 トヨクニ電線株式会社)

2016年 4月

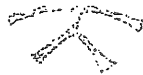
(認定管理会社)



住電機器システム株式会社



グループ長	担当



# 認 定 書

国住指第 7954 号  
平成 15 年 1 月 14 日

トヨクニ電線株式会社  
取締役社長 針谷 俊美 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PS060FL-0086
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称  
ケーブル/繊維混入けい酸カルシウム板・天然油脂混入水酸化マグネシウム材  
充てん/床耐火構造/貫通部分（中空床を除く）
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容  
別添の通り

## 1. 構造名：

ケーブル／繊維混入けい酸カルシウム板・天然油脂混入水酸化マグネシウム材充てん／  
床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

## 2. 申請使用の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様	
開口部	形 状	矩形
	面 積	0.6m <sup>2</sup> 以下
占積率 (開口面積に対するケーブル断面積の 総合計の割合)	15.2%以下	
貫通する床の構造等	鉄筋コンクリート 厚さ100mm以上 (中空床を除く)	

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様					
ケーブル	導体（又は芯線）の断面積	325mm <sup>2</sup> 以下（1本あたり）				
	導体（又は芯線）の種類	銅 ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質				
	絶縁体	塩化ビニル系	厚さ	2.5mm以下	質量	882g/m以下
		架橋ポリエチレン系	厚さ	2.5mm以下	質量	533g/m以下
	介在（円形に調整する充てん材）	紙：充てん量440g/m以下 ジュート：充てん量440g/m以下 又はポリプロピレン：充てん量374g/m以下				
	ジース	塩化ビニル系	厚さ	2.9mm以下	質量	725g/m以下
		耐燃ポリエチレン系	厚さ	2.9mm以下	質量	725g/m以下
準拠規格	電力ケーブル（JIS C 3605） 制御ケーブル（JIS C 3401）					
天然油脂混入・水酸化マグネシウム系充てん材（以下、耐熱シール材という）	形状及び寸法	ブロック状		シート状		
	充てん量	隙間が無いように密に充てん（充てん高さ50mm以上） 600V CVT3×325mm <sup>2</sup> ケーブルのみの追加巻、長さ50mm以上、厚さ5mm以上				
	材質 厚さ 密度	繊維混入けい酸カルシウム板（平成12年建設省告示第1400号） 40mm以上 0.4±0.05Mg/m <sup>3</sup>				
ケーブルラック	材質 規格 厚さ 幅	鋼製 溶融亜鉛めっき鋼板（JIS G 3302） 1.6mm以上 200mm～1000mm				

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

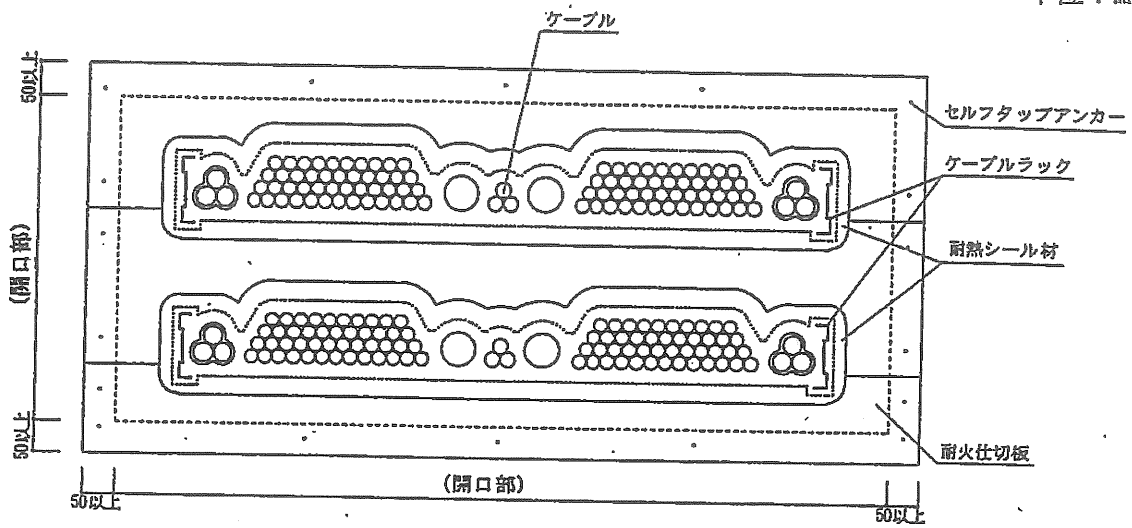
表3 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様	
耐火仕切板 受けシール材	材質 厚さ 幅	耐熱シール材 5mm以上 50mm以上
セルフタッ プ アンカー	材質 寸法 間隔	鋼製 φ5mm×長さ60mm以上 300mm以下

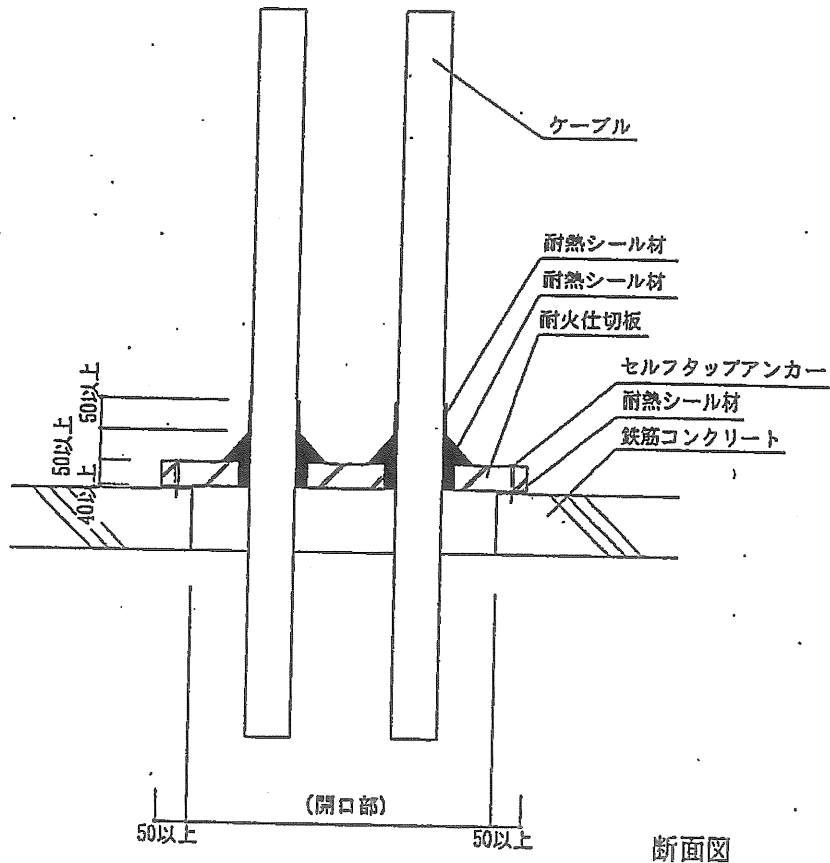
5. 構造説明図：

構造説明図を図1に示す。

単位：mm

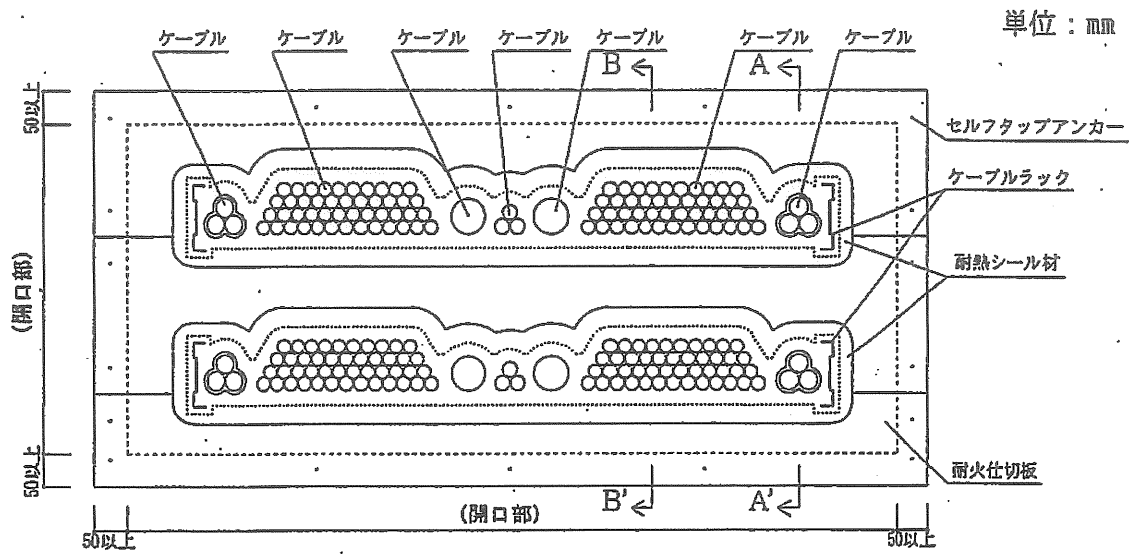


平面図



断面図

図1 構造説明図



平面図

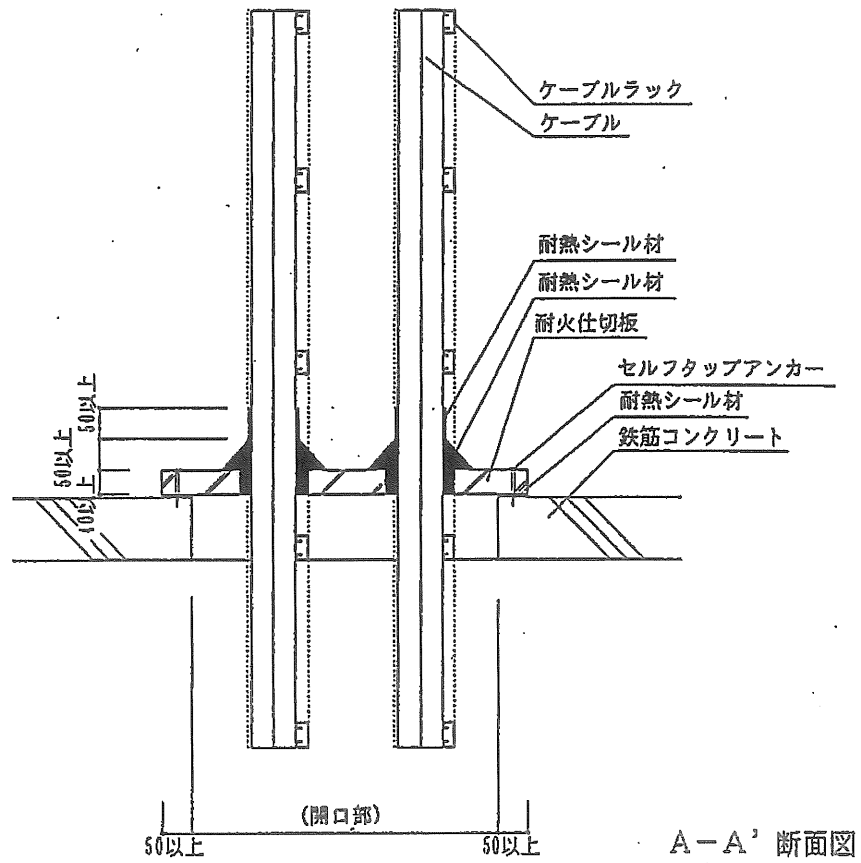


図2 施工図

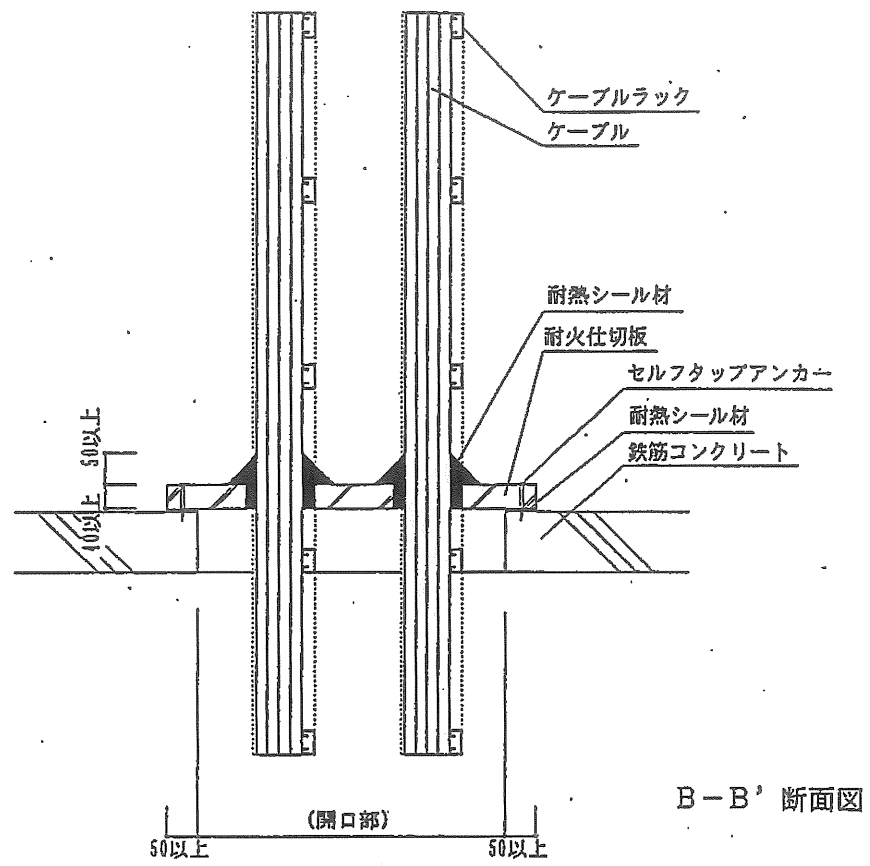


図3 施工図



6. 施工方法：

施工図を図2及び図3に示す。

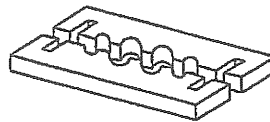
施工は以下の手順で行う。

(1) 開口部の確認及び清掃

開口面積、ケーブル占積率及び床厚等が申請仕様に適合しているかどうかを確認する。さらに、ケーブルに外傷等の異状が無い事をチェックした上で、なおかつ汚れ等がある場合、あらかじめウエス等で除去する。

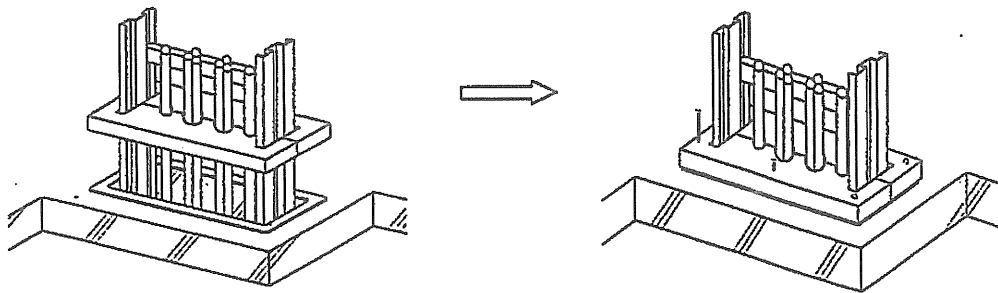
(2) 耐火仕切板の切断加工

開口部の寸法、貫通しているケーブルの形状等に合わせ、繊維混入けい酸カルシウム板(厚さ40mm以上)の切断加工を行う。



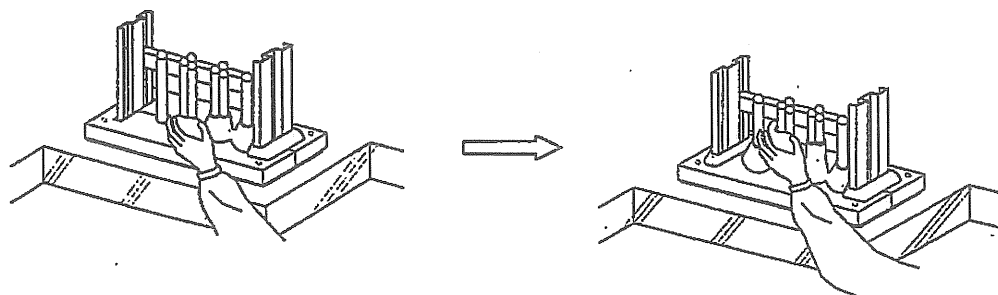
(3) 耐火仕切板の取付けとかぶりしろ部分への耐熱シールの充てん

切断加工された繊維混入けい酸カルシウム板をセルフタップアンカー等を用いてコンクリート床上部に間隔300mm以下で強固に取付ける。その際、耐火仕切板と床とのかぶりしろ部分の先端から、耐火仕切板のコンクリート面側の内側に沿って幅50mm以上、厚さ5mm以上にわたって耐熱シール材を貼り付けて固定する。



(4) 耐熱シール材の充てんと巻き足し

ケーブルと耐火仕切板との空隙を、耐熱シール材を用い密に充てんする。その場合、耐火仕切板上面からの盛上げ高さとは幅はそれぞれ50mm以上とする。また、CVT3×325mm<sup>2</sup>のケーブルが通線している場合は、テーパ状の先端から更に長さ50mm以上、厚さ5mm以上にわたって耐熱シール材を巻付ける。



(5) 最終チェック

ひび・割れ・盛上げムラ等の異常がない事を確認する。